

授業科目名		担当講師名		対象学年	
看護学概論		寺師 敬子		1 年生	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	教室	前期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	看護の概念・機能と役割・対象 健康の定義 看護理論 法的責任				
到達目標	看護の概念及び看護の機能、看護の対象について理解を深め、それをもとにして自己の看護観・人間観を発展させる。保健医療における看護の役割を認識する。あらゆる健康上の問題をもつ対象への看護実践の基礎となる。				
事前学習	事前学習課題：看護とは・看護師の魅力／ナイチンゲール・アメリカの看護／看護理論家についてレポート				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	看護学概論の授業について (事前学習課題：看護とは・看護師の魅力) の共有
2・3・4	①看護師の定義と看護師の役割 ②看護の歴史 アメリカ・日本 ③看護の歴史と看護教育制度の変遷
5	専門看護師・認定看護師・養成制度
6・7	看護理論と看護理論家の理解 理論の範囲 (事前学習課題 看護理論家について) 看護の機能と役割
8・9	看護の役割と機能、看護の継続と連携
10	看護における倫理 職業倫理としての看護倫理 現代医療におけるさまざまな倫理的問題 倫理原則
11	看護技術の特徴・看護技術の基本原則 看護技術の実践に求められる能力
12	健康とは何か・障害とは何かを理解する 看護と経済・医療保険制度
13	看護の提供の仕組み マネージメント 看護サービスの管理
14	医療の中の協働
15	終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 医学書院 フロレンス・ナイチンゲール看護覚え書き 現代社
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
看護過程		林 なおみ		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (30)	教室・実習室	前期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	看護過程の構成要素、問題解決過程				
到達目標	看護過程の概念がわかり、ヘンダーソンの看護理論を活用して看護過程の方法が理解できる。				
事前学習	1. ヘンダーソンの看護理論「看護の基本となるもの」 2. 提示された事例の疾患、症状、検査、治療、看護・対象理解等				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	看護実践と看護過程
2	看護過程の各段階 1) 情報収集
3	2) ヘンダーソンの枠組みを用いて情報整理とマズローの基本的欲求
4	3) アセスメントの枠組みの中で情報分析をする、情報の持つ意味
5	4) 全体像の把握と看護問題の明確化
6	5) 看護計画の立案
7	6) 実施と評価
8	7) 看護記録 (1) 看護記録とは (2) 記載・管理における留意点
9・10・11 12・13	紙上事例を活用し看護過程の展開を 1) 事前の学習課題の確認 2) 情報の整理 3) アセスメント 4) 全体像と関連図、看護問題の明確化 5) 看護計画の立案 6) 評価
14	1. 看護過程のメリット、クリティカルシンキング 2. 看護過程を活用し看護を展開するために必要なもの
15	看護過程実習のリフレクション
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メジカルフレンド社 ヘンダーソン看護論の実際 ニューヴェルヒロカワ 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 疾患別看護過程の展開 学研 今日の治療薬 南江堂 わかる検査値とケアのポイント 医学書院 基礎看護学実習要項
成績評価の方法	事前学習、看護過程展開記録提出物、小テストをルーブリックで評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
看護研究		池田 恵子 学内教員		3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(30)	教室 情報処理室	前期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。				
学修内容	看護研究を行う意義を理解し、実践した看護を論文作成の過程を通して振り返る。				
到達目標	ケーススタディを行うことで、研究を行う意義、研究計画書の作成の方法、論文作成の過程が理解できる。 実践した看護を振り返り、よりよい看護を考えることができる。				
事前学習	実習記録・患者情報の整理				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	講義：看護研究とは何か。ケーススタディとは何か。
2	講義：ケーススタディのすすめ方
3	講義：研究における倫理的配慮
4	講義：研究計画書の作成、文献検索
5	講義：論文の構成と書き方
6	演習：文献検索・論文作成（はじめに、事例紹介）
7・8	演習：論文作成（看護の実際）
9	演習：論文作成（考察）
10	演習：論文作成（考察～結論）
11・12	演習：抄録作成
13	講義；研究発表の方法
14	ケーススタディ発表会
15	ケーススタディ発表会、評価
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院
成績評価の方法	出席状況、研究論文、抄録、発表態度
備考	抄録集を作成する。卒業論文として取り組み、発表会で発表する。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
共通基本技術 コミュニケーション技術		脇田 真由美		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (20)	教室・実習室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	看護における・コミュニケーション・インフォームドコンセント・看護師の役割・看護倫理				
到達目標	看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解できる。 看護倫理について理解し看護者としての責任を自覚できる。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	自分のことを話してみよう
2	コミュニケーションの基本と構成要素
3	自己理解・他者理解（偏愛マップを使って）
4	フィードバックレッスンリフレクション 傾聴
5	看護理論とコミュニケーション
6・7・8	看護における人間関係成立のためのコミュニケーション 出会い 聴く 話す (演習)
9	アサーティブネス
10	言語障害のある患者へのコミュニケーション 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 認知症のある患者へのコミュニケーション
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護学生のための心理学 医学書院 患者－看護婦関係を学ぶロールプレイングを活用して 星和書店
成績評価の方法	医療安全と感染防止の技術を併せて筆記試験
備考	医療安全と感染防止の技術を併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
共通基本技術 医療安全		寺師 敬子		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (10)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義				
学修内容	医療事故と看護事故 危険因子 ヒューマンエラー ヒヤリハット				
到達目標	1 医療事故の発生する要因を理解し、事故を回避するための基礎的知識を修得する 2 医療機関における組織的な安全管理体制への取り組みを理解する 3 看護職を選ぶことの重さと医療安全努力の責務を自覚する				
事前学習	医療事故の定義 看護事故の2種5群 間違いによる事故防止3ステップと予測への事故防止2ステップ				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	医療安全を学ぶことの大切さ 人はなぜ間違いをおかすのか「ヒューマンエラーについて」 事故がおこる原因 ～ 事例 ～から学ぶ ヒューマンエラーと医療事故 医療事故の現状
2	看護事故の構造 2種5群 間違いによる事故の防止3ステップ、危険の予測への事故防止2ステップ
3	医療安全とコミュニケーション
4	労働安全衛生上の事故防止 組織としての医療安全対策
5	リスク感性を磨く危険予知トレーニング
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践 医学書院 新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I メヂカルフレンド社 医療安全ワークブック第3版 医学書院
成績評価の方法	コミュニケーションと感染防止の技術を併せて筆記試験
備考	コミュニケーションと感染防止の技術を併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
共通基本技術 感染防止の技術		徳田 初美		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (15)	教室・実習室	前期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	標準予防策 感染経路別予防策 洗浄・消毒・滅菌 感染性廃棄物				
到達目標	感染成立の条件及び院内感染の基本を知り、看護師が感染防止のための実践を行うことの重要性を理解する 手指衛生・個人防護具の着脱・無菌操作を学び、正しく実践できる				
事前学習	感染成立の条件及び院内感染防止の基本 衛生学的手洗い、個人防護具の着脱、無菌操作の手順、根拠と留意点				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	・感染防止の定義と発症、感染の成立過程 ・標準予防策の基礎知識 ・標準予防策の対策と実際 衛生学的手洗い 演習
2	・感染経路別予防策（接触感染 飛沫感染 空気感染）の基礎知識 ・標準予防策の対策と実際 衛生学的手洗い 演習
3	・洗浄、消毒、滅菌の基礎知識 ・感染性廃棄物の取り扱い ・カテーテル関連血流感染対策 ・針刺し防止策 ・標準予防策の対策と実際 個人防護具 演習
4	個人防護具の着脱 無菌操作の技術演習 デモンストレーション
5	衛生学的手洗い 個人防護具の着脱 無菌操作の技術演習
6・7	実技試験 (衛生学的手洗い 個人防護具の着脱 無菌操作)
8	終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 新体系看護学全書Ⅱ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メディカルフレンド社 看護技術プラクティス 学研
成績評価の方法	コミュニケーションと医療安全を併せて共通基本技術の筆記試験
備考	コミュニケーションと医療安全を併せて共通基本技術の1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
日常生活援助技術Ⅰ 環境		大里 勝行		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (1 4)	教室・実習室	前期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	環境と健康の関係の理解、病床環境整備の意義と実際				
到達目標	環境整備の意義を理解し、環境整備が安全安楽に実施できる。				
事前学習	環境と健康との関係について事前学習提出 評価対象 (ナイチンゲール看護覚え書き参照)				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	療養生活の環境 環境と健康との関係 病室の環境と調整 個室と多床室 一般病床と療養病床 温度・湿度、光と音、色彩、空気の清浄性において、人的環境
2	病床について：ベッドの名称 取り扱い 病床環境のアセスメント
3	ベッドメイキングの実際 ①シーツの準備：たたみ方 下シーツの敷き方：三角コーナー ②上シーツの敷き方：四角コーナー ③ベッドメイキング：クローズドベッド作成デモンストレーション など
4	デモンストレーション：クローズドベッド作成・演習
5	臥床患者のシーツ交換デモ・演習 環境整備の実際
6・7	実技試験 振り返り
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院、 新体系看護学全書 基礎看護技術Ⅱ メジカルフレンド社 看護技術プラクティス 学研 ナイチンゲール看護覚え書き 現代社
成績評価の方法	活動と休息と併せて筆記試験
備考	活動と休息と併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
日常生活援助技術Ⅰ 活動と休息		大里 勝行		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (16)	教室・実習室	前期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	体位・ボディメカニクスの原理の理解と活用・体位変換 移乗・移送・睡眠と睡眠障害				
到達目標	人間にとっての活動と休息の意義が理解できる。 安全・安楽・ボディメカニクスを活用とした体位変換、移動の技術ができる。				
事前学習	ワークシート (体験したことの感想や考え)				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	身体を動かさないとどうなっていくのか いろいろな体位を体験してみよう
2	実際に介助して動かしてみよう ボディメカニクス・体位変換・水平移動
3	実際に車椅子・ストレッチャーに乗って体験・経験してみよう 移動・移乗・移送の援助
4	睡眠と休息
5	技術試験デモンストレーション
6	技術試験 「体位変換・車椅子移乗・車椅子移送」
7	技術試験 「体位変換・車椅子移乗・車椅子移送」
8	まとめ 終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 学研
成績評価の方法	環境と併せて筆記試験
備考	環境と併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
日常生活援助技術Ⅱ 食事		脇田 真由美		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (14)	教室・実習室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義				
学修内容・食事	健康と食事の意義、食事に必要な機能を理解し安全な食事援助がわかる				
到達目標・食事	・食事の意義と食事援助を行う態度を理解できる ・栄養と食行動のアセスメントができる ・食事援助の実際が理解できる ・経鼻経管栄養法の注入技術を修得できる				
事前学習・食事	栄養評価基準 BMI 水分出納 検査データー 咀嚼と嚥下機能				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	栄養・食行動のアセスメント 栄養状態・摂取能力・嚥下機能・姿勢・環境
2	医療施設で提供される食事について 食事介助の基礎知識
3	食事療法・食事援助の目的・看護師の役割 援助の実際（座位・臥位）
4	非経口的栄養：目的・種類と方法 （経鼻経管栄養 経腸栄養 静脈栄養 中心静脈栄養）
5	経鼻経管栄養法：チューブ挿入の実際 技術試験デモンストレーション（経管栄養法）
6 7	経鼻経管栄養法 注入技術演習
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 看護技術プラクティス 学研
成績評価の方法	排泄と併せて筆記試験
備考	排泄と併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
日常生活援助技術Ⅱ 排泄		有田 敏子		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (16)	教室・実習室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義				
学習内容・排泄	排泄の意義とメカニズム、アセスメント方法 自然排尿・排便介助法 一時的導尿・持続的導尿について 便秘のアセスメントと便秘改善の援助 ストーマケア				
到達目標・排泄	- 排泄援助の基礎的知識を修得し、援助方法を理解する - 排泄援助を提供する看護師に求められる基本的姿勢を理解できる				
事前学習・排泄	排泄観察記録 排泄のメカニズム				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	- 排泄の意義について（生物学的、心理的、社会的） - 排泄援助の基本的姿勢 プライバシー、自尊感情へ配慮した看護の姿勢 - 排泄が成立する一連の行動 - 排泄の情報収集とアセスメント
2	自然排尿および自然排便の介助 - トイレの使用、誘導 ・ポータブルトイレの援助 - 床上排泄（尿器・便器を用いる方法）
3	自然排尿および自然排便の介助 - おむつによる援助方法 （基礎知識、援助の実際） - 陰部洗浄 （演習）
4	排尿障害時の援助：一時的導尿、膀胱留置カテーテルの管理方法 排便障害時の援助：排便を促す援助と便秘改善のケア ストーマケア（肛門・尿管）
5	グリセリン浣腸・摘便（演習） 排泄技術演習 デモンストレーション
6・7	排泄技術 演習
8	まとめ 終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 看護技術プラクティス 学研
成績評価の方法	食事と併せて筆記試験
備考	食事と併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
日常生活援助技術Ⅲ 清潔衣生活		中島 久代		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (30)	教室・実習室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	清潔と衣服の意義、清潔を保つ日常生活援助の方法				
到達目標	清潔と衣服の意義を理解し、清潔を保つ日常生活援助が習得できる。				
事前学習	病衣の条件、入浴・全身清拭と寝衣交換・洗髪・足浴・陰部洗浄・口腔ケアの方法				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	人間にとっての清潔の意義と清潔援助の効果
2	清潔援助の基礎的知識 (入浴・シャワー浴・陰部洗浄・口腔ケア)
3	患者の状態に応じた援助の方法と留意点 (手浴・足浴)
4	病床での衣生活の援助
5	清潔援助の方法 1) 入浴・シャワー浴・陰部洗浄・口腔ケア
6	足浴・手浴・口腔ケア (演習)
7・8	2) 全身清拭と寝衣交換の基礎的知識と実際 (演習)
9・10	全身清拭技術試験
11	3) 洗髪の基礎的知識
12	4) 洗髪の実技演習
13・14	洗髪の技術試験
15	まとめ、終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 新体系看護学全書 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 看護技術プラクティス 学研
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
ヘルスアセスメント バイタルサイン		岩井 里砂		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (17)	教室・実習室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	バイタルサイン測定の意義と測定の方法と留意点				
到達目標	バイタルサイン測定の意義を理解し、正確なバイタルサイン測定ができる				
事前学習	体温・脈拍・呼吸・血圧の測定方法				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	バイタルサイン測定の意義、体温測定の方法と留意点
2	脈拍と呼吸測定の方法と留意点
3	血圧測定の方法と留意点
4	バイタルサイン測定の実際 (演習)
5	バイタルサイン測定の実際 (演習)
6	技術試験：バイタルサイン測定と報告
7	技術試験：バイタルサイン測定と報告
8	体温表の記入とアセスメント
9	終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護技術プラクティス 学研
成績評価の方法	フィジカルアセスメントと併せて筆記試験
備考	フィジカルアセスメントと併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
ヘルスアセスメント フィジカルアセスメント		林 なおみ		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (28)	教室・実習室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。				
学修内容	解剖生理を理解し正常な状態、異常な状態を考察し判断する。				
到達目標	基本的なフィジカルイグザミネーションが実施でき、正常な身体状況が判断できる。				
事前学習	身体の臓器の位置、機能の理解。 (心臓 肺 肝臓 筋肉など)				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	ヘルスアセスメントの意義と目的 観察：主観的情報、客観的情報
2	専門用語 体表面の解剖学的名称、症状名 体内の臓器の位置
3・4	フィジカルイグザミネーションに必要な技術（視診・触診・聴診・打診） 身体計測の実際とアセスメント（身長、体重、胸囲、腹囲、握力、視力検査） 体表面の観察とアセスメント （皮膚、爪、指、頭髮、外眼部、リンパ節、甲状腺）
5	アセスメントに必要な知識：心臓・肺の解剖生理
6・7	フィジカルイグザミネーションの実際とアセスメント（演習） ① 呼吸器系 ②循環器系
8	アセスメントに必要な知識：門脈側副路・浮腫の解剖生理
9・10・11・12	フィジカルイグザミネーションの実際とアセスメント（演習） ③消化器系 ④運動器系 ⑤中枢神経系
12・13	フィジカルイグザミネーションの実際とアセスメント（演習） ⑥感覚器系 ⑦乳房
14	心理・社会的状態の観察とアセスメント 行動的側面、認知的側面 人間関係、経済的問題
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院 系統看護学講座 専門分野 解剖生理学 医学書院
成績評価の方法	バイタルサインと併せて筆記試験
備考	バイタルサインと併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
診療の補助技術Ⅰ 与薬		有田 敏子		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(30)	教室・実習室	前期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	与薬の意義 看護師の役割 与薬方法の理解・演習				
到達目標	与薬の援助技術の基本を学び、安全な与薬の方法が実施できる。				
事前学習	与薬に関する法律 与薬の6R 薬物の作用吸収経路 与薬法				

授業計画

No.	授 業 内 容
1・2	第9章 与薬の意義と看護師の役割 法律 薬の管理(毒薬、劇薬、麻薬の管理) 与薬の種類と吸収排泄経路 医療事故 注意を要する薬
3	経口与薬法 点眼法 点鼻法 塗布・塗擦法 坐薬法
4	与薬の実際(経口与薬法 ダブルチェック 坐薬法)
5	注射法の種類と方法 (皮内、皮下、筋肉、静脈)
6	注射器の接続と薬液吸引 注射部位の選択の実際
7	皮下注射の実際 (演習)
8	筋肉注射のデモンストレーション 演習
9・10	筋肉注射の演習(注射部位の選定)
11	筋肉注射の演習
12・13	実技試験 振り返り
14	留置針挿入と輸液ポンプ、輸注ポンプの取り扱いの実際(演習) 与薬の計算、輸血、中心静脈栄養
15	まとめ 終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座専門Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院、 新体系看護学全書 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 看護技術プラクティス 学研
成績評価の方法	グループ学習発表 筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
診療の補助技術Ⅱ 検査		徳田 初美		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (30)	教室・実習室	前期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義				
学修内容	検体検査、生体検査、生体情報のモニタリングの種類・目的 診察・検査・処置を受ける患者の看護 採血に必要な看護技術				
到達目標	検査値・生体情報から患者の状態をアセスメントすることを理解する 診療を補助する上で安全・安楽、正確な情報を得るための援助を学ぶ 検査を受ける対象の心理を理解し、安全・安楽の援助を学ぶ 採血の看護技術が安全・安楽に実践できる				
事前学習	生体検査と看護				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	臨床検査の目的・種類、検査における看護師の役割 スクリーニング検査（健診と検診） 検査を受ける患者への説明事項 検査に伴う危険とその防止
2	検体検査と看護 検体検査に必要な検体スピッツの各種 尿・便・喀痰の目的、採取方法、注意点 血液検査（静脈血採血 動脈血採血 血糖測定） 検査値を読み取る アセスメント
3	生体検査と看護① グループワーク 心電図・X線撮影・CT・MRI・内視鏡・超音波・スパイロメトリー 各医学検査・胸腔穿刺・腹腔穿刺・腰椎穿刺・骨髄穿刺
4	生体検査と看護② グループワーク・発表資料作成
5・6	生体検査と看護③ グループワーク学習発表
7	臨床検査 小テスト 補足授業（生体検査と看護、生体情報モニタリング）
8	静脈血採血援助の実際 （採血部位の選択、準備～手順、注意点）
9	駆血方法演習 シュミレーターへの採血演習
10	静脈血採血 技術演習 デモンストレーション
11	静脈血採血 技術演習
12	静脈血採血 技術演習
13・14	静脈血採血 技術演習発表
15	まとめ・終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 新体系看護学全書Ⅱ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 看護技術プラクティス 学研 系統看護学講座 別巻 臨床検査・臨床放射線医学 医学書院
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
臨床判断		池田 恵子		3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(15)	教室・実習室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	患者の状態をアセスメントし臨床判断能力の基礎を養う				
到達目標	1. フィジカルアセスメントに必要な情報がわかり、患者の観察ができる。 2. 対象の状況をアセスメントできる。 3. 状況に応じた看護介入を判断できる。 4. 臨床判断に必要な思考過程を理解できる。				
事前学習	各事例に対して病態、症状、看護を事前学習しレポート提出する				

授業計画

No.	授 業 内 容	
1	臨床判断の基礎知識 臨床判断とは？タナーの臨床判断モデル DVD 事例①与薬の援助場面	
2・3	気づき・解釈のトレーニング DVD 事例②糖尿病教育入院患者 ～コミュニケーションから重要な情報を判断する～	DVD
4・5	気づき・解釈のトレーニング DVD 事例③肺切除患者の術後観察 シミュレーション事例①S 状結腸切除術後患者 ～術後の観察から患者の状態が判断できる～	DVD シミュレーター
6・7	気づき・解釈・対応・反応の観察 DVD 事例④S 状結腸切除術後患者の初回離床 ～初回離床の判断と対処方法がわかる～ シミュレーション事例②大腿骨頸部骨折術後在宅療養患者 ～異常の発見と対処方法がわかる～	DVD シミュレーター
8	終講試験	
履修上の要件	基礎看護技術の共通基本技術Ⅰ・Ⅱ・日常生活援助技術・ヘルスアセスメントが終了していること。	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学② 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑤ 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院	
成績評価の方法	筆記試験	
備考		

授業科目名		担当講師名		対象学年	
臨床看護技術		脇田 真由美・長井 安代 学内教員		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (45)	教室・実習室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	臨床看護技術の習得				
到達目標	健康障害を持つ対象を理解し、患者の状態に応じて、根拠をふまえた看護技術を適応する基礎を習得できる。				
事前学習	各事例に対して病態、症状、看護を事前学習しレポート提出する				

授業計画

No.	授 業 内 容		
1・2	発熱のある患者への援助技術 罨法	講義・演習	脇田
3・4・5・6・7	呼吸困難のある患者への援助技術 酸素投与、ネブライザー、体位ドレナージ 口腔鼻腔吸引、気管内吸引	講義・演習	長井
8・9・10・11	点滴・ドレーンのある患者の援助技術 点滴管理、寝衣交換	講義・演習	脇田
12・13・14・ 15・16	麻痺のある患者への看護技術 移乗動作、ポータブルトイレでの排泄援助	講義・演習	
17・18・19・ 20	排泄（排尿）の援助技術 膀胱留置カテーテルの挿入と管理	講義・演習	
21・22	技術試験（OSCE：寝衣交換、排泄援助）		
23	終講試験（筆記試験）		
履修上の要件			
テキスト、教材、 参考書	基礎看護学別巻 看護技術の患者への適応 メヂカルフレンド社 疾患別 看護過程の展開 学研 看護過程に沿った対症看護 学研 看護技術プラクティス 学研		
成績評価の方法	筆記試験と実技試験		
備考			